



2025年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年11月11日

上場会社名 K L a b 株式会社 上場取引所 東
コード番号 3656 URL <https://www.klab.com/jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 真田 哲弥
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 高田 和幸 (TEL) 03-5771-1100
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有 (<https://www.klab.com/jp/ir/library/>)
決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2025年12月期第3四半期の連結業績(2025年1月1日～2025年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期第3四半期	4,933	△18.6	△860	—	△1,045	—	△3,974	—
2024年12月期第3四半期	6,058	△27.5	△1,113	—	△1,182	—	△1,757	—

(注) 包括利益 2025年12月期第3四半期 △4,630百万円(— %) 2024年12月期第3四半期 △1,469百万円(— %)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期第3四半期	△72.55	—
2024年12月期第3四半期	△40.79	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年12月期第3四半期	10,460	7,195	68.5
2024年12月期	15,784	10,371	65.6

(参考) 自己資本 2025年12月期第3四半期 7,167百万円 2024年12月期 10,360百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年12月期	—	0.00	—	—	—
2025年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年12月期の連結業績予想(2025年1月1日～2025年12月31日)

2025年12月期の連結業績予想については、合理的な業績予想の算出が困難であるため、非開示といたします。
なお、今後の進捗を踏まえ、算定が可能になった場合は速やかに開示する方針です。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 - 社(社名) - 、除外 1社(社名) 株式会社グローバルギア

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年12月期3Q	60,792,300株	2024年12月期	48,502,300株
② 期末自己株式数	2025年12月期3Q	641,617株	2024年12月期	641,605株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2025年12月期3Q	54,787,786株	2024年12月期3Q	43,084,464株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(決算補足説明資料の入手方法について)

業績の概要につきましては、当社ウェブサイトに掲載しております、決算説明資料をご確認ください。

<https://www.klab.com/jp/ir/library/presentations/>

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(追加情報)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等の注記)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
3. その他	10
継続企業の前提に関する重要事象等	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間の売上高は、4,933,961千円（前年同期比18.6%減）となりました。

これは主に、『キャプテン翼 〜たたかえドリームチーム〜』において、KPIが前期よりも減衰傾向にあることに加え、商材の売れ行きが軟調に推移したことによるものです。

なお、サービス開始から10周年を迎えた『BLEACH Brave Souls』においては、「10th Anniversary Year」として年初より継続してキャンペーンを実施してまいりました。これにより、減衰を抑制し、前年同期と同程度の売上高を確保することが出来ております。また、支援モデル事業として手掛けている『ハイキュー!!FLY HIGH』が配信エリアを拡大したことも、売上に寄与しました。

売上原価は4,341,644千円（同18.8%減）となりました。これは主に、売上高の減少に伴い支払手数料等が減少したほか、業務の見直し、希望退職の募集の実施、採用のコントロールを通じて労務費、外注費、業務委託費等の費用を総合的に圧縮したことによるものです。加えて、これまでに進めてきた地方拠点及び本社オフィスの見直しにつきましても、費用の縮小に寄与しております。

販売費及び一般管理費につきましても、売上原価同様に全般的な費用抑制に努め、1,452,743千円（同20.3%減）となりました。

なお、第2四半期及び第3四半期において有価証券を複数銘柄売却したことに伴い、投資有価証券売却益1,578,463千円を特別利益に計上いたしました。

また、第2四半期において、希望退職の募集の実施に伴う特別退職金41,483千円及び『EA SPORTS FC™ TACTICAL』におけるソフトウェア資産の減損損失4,426,697千円を特別損失に計上しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高4,933,961千円（同18.6%減）、営業損失860,427千円（前年同期は営業損失1,113,200千円）、経常損失1,045,948千円（前年同期は経常損失1,182,078千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失3,974,723千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失1,757,440千円）となりました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は10,460,910千円となり、前連結会計年度末に比べ、5,323,276千円の減少となりました。

流動資産合計は4,907,532千円となり、前連結会計年度末に比べ、507,069千円の増加となりました。これは主として、現金及び預金が875,252千円増加したことによるものです。

固定資産合計は5,553,378千円となり、前連結会計年度末に比べ、5,830,346千円の減少となりました。これは主として、ソフトウェア仮勘定が3,584,721千円減少したことによるものです。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は3,265,899千円となり、前連結会計年度末に比べ、2,146,781千円の減少となりました。

流動負債合計は2,932,547千円となり、前連結会計年度末に比べ、1,752,851千円の減少となりました。これは主として、短期借入金が800,000千円減少したこと及び1年内返済予定の長期借入金が522,792千円減少したことによるものです。

固定負債合計は333,352千円となり、前連結会計年度末に比べ、393,930千円の減少となりました。これは主として、社債が300,000千円増加した一方で、固定負債のその他が693,930千円減少したことによるものです。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は7,195,010千円となり、前連結会計年度末に比べ、3,176,494千円の減少となりました。これは主として、資本金及び資本準備金がそれぞれ718,878千円増加した一方で、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により利益剰余金が3,974,723千円減少したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループを取り巻く事業環境の変化が激しく、合理的かつ信頼性のある業績予想の提示が困難であると考え、2025年度の通期業績予想につきましては、非開示としております。

今後の進捗を踏まえ、算定が可能になり次第速やかに開示する方針です。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,605,179	2,480,432
売掛金	1,220,550	787,610
前払費用	1,083,366	1,105,139
その他	529,311	534,914
貸倒引当金	△37,946	△564
流動資産合計	4,400,462	4,907,532
固定資産		
有形固定資産	81,828	51,605
無形固定資産		
のれん	555,425	—
ソフトウェア	24,748	15,535
ソフトウェア仮勘定	7,226,182	3,641,460
その他	4,731	1,891
無形固定資産合計	7,811,088	3,658,887
投資その他の資産		
投資有価証券	2,031,273	292,900
その他	1,608,705	1,679,015
貸倒引当金	△149,171	△129,030
投資その他の資産合計	3,490,807	1,842,885
固定資産合計	11,383,724	5,553,378
資産合計	15,784,187	10,460,910
負債の部		
流動負債		
買掛金	592,556	534,703
短期借入金	800,000	—
1年内返済予定の長期借入金	773,350	250,558
未払法人税等	69,517	20,454
前受金	1,772,205	1,710,034
賞与引当金	105,920	21,314
その他	571,849	395,482
流動負債合計	4,685,399	2,932,547
固定負債		
社債	—	300,000
その他	727,282	33,352
固定負債合計	727,282	333,352
負債合計	5,412,681	3,265,899
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,220,354	6,939,233
資本剰余金	5,974,903	6,693,782
利益剰余金	△1,782,339	△5,757,062
自己株式	△397,395	△397,397
株主資本合計	10,015,523	7,478,555
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	744,674	99,114
為替換算調整勘定	△400,125	△410,281
その他の包括利益累計額合計	344,548	△311,166
新株予約権	11,432	27,622
純資産合計	10,371,505	7,195,010
負債純資産合計	15,784,187	10,460,910

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)
売上高	6,058,908	4,933,961
売上原価	5,349,245	4,341,644
売上総利益	709,662	592,316
販売費及び一般管理費	1,822,863	1,452,743
営業損失(△)	△1,113,200	△860,427
営業外収益		
受取利息	7,765	8,977
受取配当金	58,803	36,758
その他	29,163	13,768
営業外収益合計	95,732	59,504
営業外費用		
支払利息	26,335	31,149
支払手数料	29,941	66,374
投資有価証券売却損	61,661	—
為替差損	35,798	98,811
その他	10,873	48,690
営業外費用合計	164,609	245,025
経常損失(△)	△1,182,078	△1,045,948
特別利益		
投資有価証券売却益	—	1,578,463
その他	4,461	75,815
特別利益合計	4,461	1,654,278
特別損失		
減損損失	—	4,426,697
関係会社清算損	5,709	—
その他	648	42,532
特別損失合計	6,358	4,469,230
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,183,975	△3,860,899
法人税等	573,464	113,823
四半期純損失(△)	△1,757,440	△3,974,723
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,757,440	△3,974,723

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)
四半期純損失(△)	△1,757,440	△3,974,723
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	333,203	△645,559
為替換算調整勘定	△44,908	△10,156
その他の包括利益合計	288,295	△655,715
四半期包括利益	△1,469,145	△4,630,438
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,467,811	△4,630,438
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,333	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

「所得税法等の一部を改正する法律」(2025年法律第13号)が2025年3月31日に成立したことに伴い、2026年4月1日以後に開始する連結会計年度から防衛特別法人税が課されることになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、2027年1月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異等については、従来の30.62%から31.52%に変更し計算しております。

なお、この税率変更による当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動

当第3四半期連結累計期間において、新株予約権の権利行使により、資本金及び資本準備金がそれぞれ723,387千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が6,181,343千円、資本剰余金が5,935,893千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動

当第3四半期連結累計期間において、新株予約権の権利行使により、資本金及び資本準備金がそれぞれ718,878千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が6,939,233千円、資本剰余金が6,693,782千円となっております。

(会計方針の変更)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前年四半期の四半期連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	四半期連結損益計算書計上額 (注) 2
	ゲーム事業		
売上高			
ユーザーからの課金収益	4,628,568	—	4,628,568
その他	1,363,528	66,810	1,430,339
顧客との契約から生じる収益	5,992,097	66,810	6,058,908
外部顧客への売上高	5,992,097	66,810	6,058,908
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	5,992,097	66,810	6,058,908
セグメント利益又は損失 (△)	757,143	△47,480	709,662

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の売上総利益と一致しているため差異調整は行っておりません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	四半期連結損益計算書計上額 (注) 2
	ゲーム事業		
売上高			
ユーザーからの課金収益	3,844,436	—	3,844,436
その他	1,079,043	10,480	1,089,524
顧客との契約から生じる収益	4,923,480	10,480	4,933,961
外部顧客への売上高	4,923,480	10,480	4,933,961
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	4,923,480	10,480	4,933,961
セグメント利益又は損失 (△)	599,926	△7,609	592,316

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の売上総利益と一致しているため差異調整は行っておりません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ゲーム事業」セグメントにおいて、ソフトウェア仮勘定の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において4,426,697千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「ゲーム事業」セグメントにおいて、株式会社グローバルギアの全株式を譲渡し、連結の範囲から除外しております。なお、当該事象によるのれんの減少額は、当第3四半期連結累計期間において510,991千円であります。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3 四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3 四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれん償却額は、次のとおりであります。

	前第3 四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)	当第3 四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)
減価償却費	65,442千円	47,422千円
のれん償却額	66,651千円	44,434千円

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、4期連続の営業赤字及び営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

また、海外大手のゲームパブリッシャーと共に開発しているタイトル『EA SPORTS FC™ TACTICAL』におきましては、パブリッシャーとの協議が長引き、リリース時期が未定となっております。

一方で、株式会社スクウェア・エニックスとの共同開発タイトル『ドラゴンクエストスマッシュグロウ』は、10月にグローバルでのクローズドβテストを実施いたしました。当タイトルは、2026年のグローバル同時リリースに向けて順調に準備が進んでおります。また、TVアニメ『僕のヒーローアカデミア』のIPを活用したタイトルにつきましても、着実に開発が進行しております。加えて、売上高のさらなる積み上げを目指し、海外のゲーム開発会社に対するIP獲得やIPコラボの支援、従来のモバイルオンラインゲームとは収益構造が異なるハイブリッドカジュアルゲームの新規開発にも継続的に取り組むなど、モバイルオンラインゲーム事業の領域拡大に注力しております。

さらに、新たな収益獲得に向けて「生成AI」「ブロックチェーン」「エンタメ」等の成長性が高い事業領域を戦略的に選定し、早期の黒字化が可能なビジネスモデルの構築を進めております。既に「総合AIエンタテインメント事業」及び「GPU AIクラウド事業」を発表したほか、その他のプロジェクトについても事業化に向けて検討を進めております。

費用面では、引き続き、全社的なコストコントロールを通じて更なる費用の圧縮に努めるとともに、要員の適正化の実施につきましても継続的に検討してまいります。

以上の施策等を通じ、事業成長とコスト圧縮の両面から、キャッシュ・フローの改善及び早期の黒字化を目指してまいります。

さらに、財務面においては、手元流動性確保のため、投資有価証券等の売却や政策保有株式を含めた資産の効率的な運用に向けた対応を進めるとともに、金融機関からの資金調達を継続的に行うことで財務基盤の更なる強化を図ってまいります。また、共同事業スキームによる開発費用の分担や、グループ全体での資金の効率的な活用も併せて進めてまいります。

以上のことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。